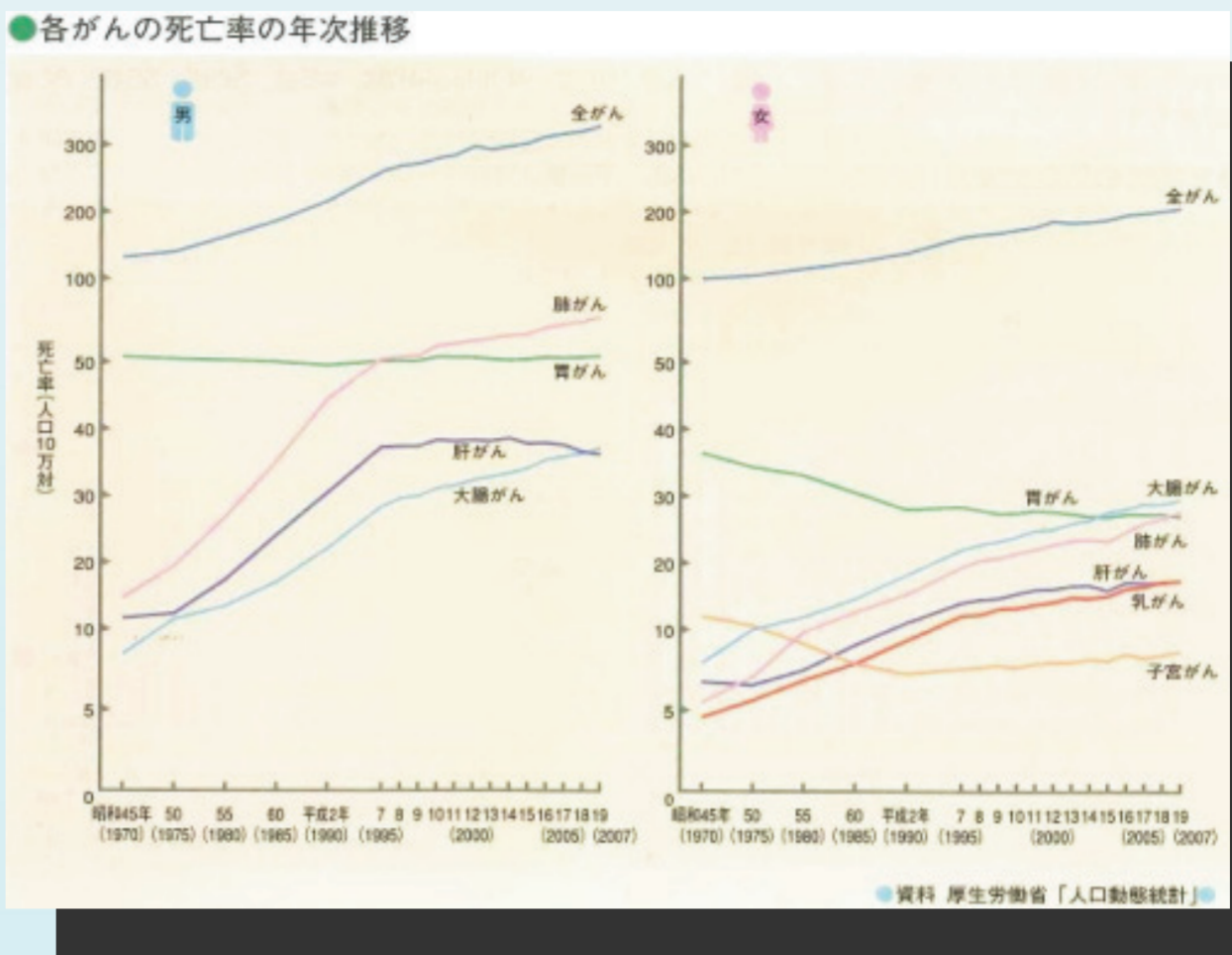


がん健診で活躍する放射線関連検査

現在、日本人年間のがんによる死亡者数は33万人にもものぼります。年間の総死亡者数は110万人ですので約3人に1人はがんで亡くなることと成ります。がんの治療は早期発見、早期治療が必要とされており、そのための予防医学重要性が高まっています。

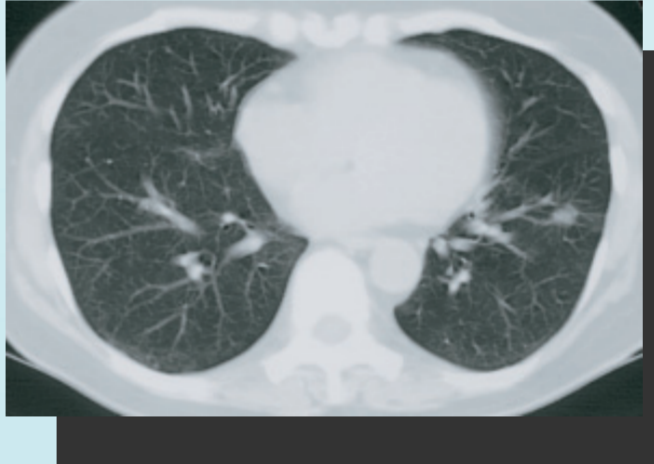
健診における予防医学の現場では、診療放射線技師が様々な装置を用いて医療情報を提供しております。



肺がん検診

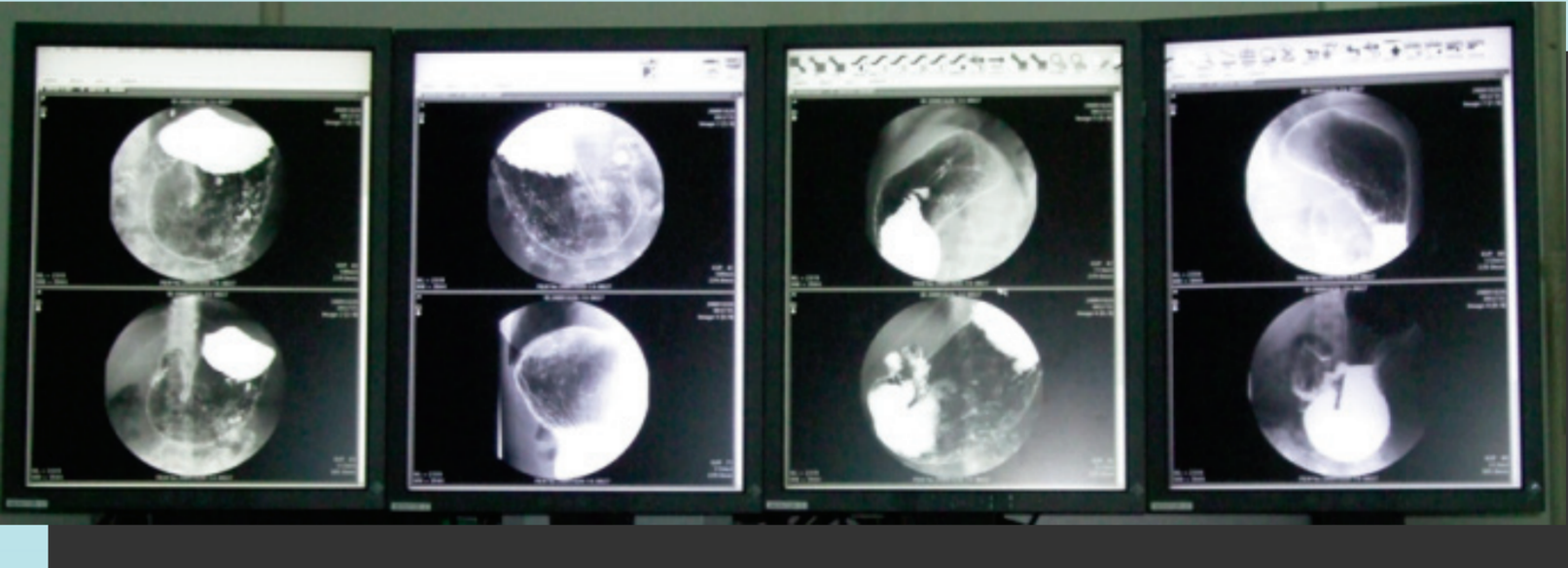
がんの中で最も多い肺がんは、死亡者数・死亡率共に年々増加しており、その重要な危険因子は喫煙です。高齢に成るに従い死亡率の増加傾向が認められ、人口の高年齢化が進んでいることが背景にあります。

肺がん検診は、問診、胸部X線検査、喀痰細胞診で実施されています。最近ではCTの進歩にともない、オプション等でより詳しく検査が出来るX線CT装置による肺がん検査を行っている施設も増えてきております。



胃がん検診

胃がん検診は健診車の普及にともない、各市町村の健診として多く実施されてきました。検査内容は問診と、X線TVによる胃X線検査です。胃X線検査は胃を膨らませるための発泡剤とバリウム(造影剤)を服用して、エックス線撮影を行う検査です。



乳がん検診

ピンクリボン運動などにより、乳がん検診も一般の方にも広まってきました。検査内容は主に問診、視触診、乳房X線検査(マンモグラフィ)で実施されているところが多く、乳房超音波検査を組み合わせもあります。

また、最近では健診バスの普及が増えてきており、多くの方々に広く受け入れられるようになってきました。

